

分科会④【主題Ⅱ：道徳的諸価値と子どもの生活が豊かにつながり、考えを深める授業】

レジリエンス（元気な心・しなやかな心・くじけない心） を育む道徳教育の取り組み

三木町立白山小学校 広瀬 由香

1 研究の視点

- (1) レジリエンスを育むために、教科や特別活動、学校行事と関連付けた総合単元学習を展開する。
- (2) 日常生活の中で、自分の行動を振り返ったり児童の言動を教師が価値付けたりすることで、単元を通して意識を継続できるようにする。

2 研究の概要

(1) 学校の課題について

本校の教育目標は「自ら学ぶ意欲と豊かな心をもち、たくましく生きる児童の育成」である。めざす児童像として「よく考え、やり抜く子」、「よく働き、思いやりのある子」、「よく遊び、心も体もたくましい子」「ともに学び合い、高め合う子」の4つを掲げ、全職員が教育目標の共通理解を図り、協力して全児童の指導に当たる教育活動の展開をめざしている。また、経営方針においても「子どもとともに創るときめきのある授業の推進」と「白山（自分・学校・家庭・地域）が好きな子どもの育成」をあげ、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着と活用、聞き合い・伝え合い・学び合う授業実践および人権感覚を磨き、生き方を見つめる教育活動の充実を図っている。

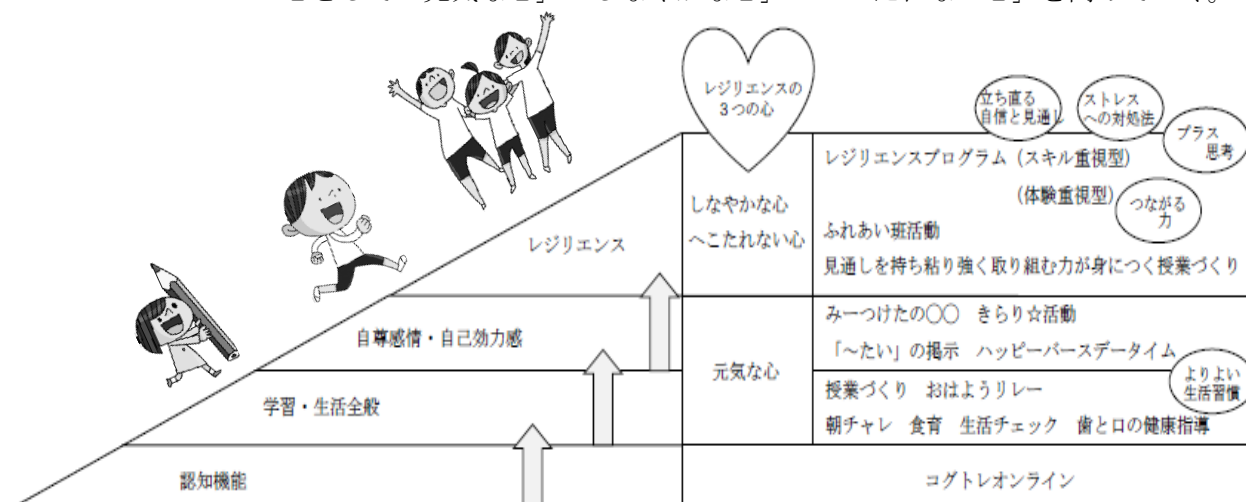
(2) 現職教育の取り組みから

本校の現職教育の研究主題は、「自ら考え、ともに学び合う児童の育成～認知機能を育み、レジリエンスを高める指導を通して～」である。

レジリエンスを高めるためには、困難な場面や課題に出会ったときに、どのようにしてしなやかに対応していくかを知識として身に付け、その場面に出くわしたときに、自分の知識や経験を引き出して活用していく力が必要である。また、その力を十分に身につけることができれば、特別な場面だけでなく、日々の人間関係や、学習における課題に取り組む際にも活用することができる。

今年度は、昨年度の研究をさらに精選しながら進め、レジリエンスプログラムを通して「元気な心」「しなやかな心」「へこたれない心」の3つの心を育んでいく。

本校で付けたいと考えているレジリエンスとは、逆境に耐える力に重きを置くのではなく、困難に直面したときに、自分なりに受け止めたり、新たな視点をもったり、誰かに相談したりして解決しようとする力ととらえる。また、認知機能とは、記憶、言語理解、注意、知覚、推論・判断といったいくつかの要素が含まれた知的機能のことを示している。本校では、認知機能を全ての行動の基盤ととらえ、レジリエンスを高めていくための土台であると考え。そこで、レジリエンスの3つの心として「元気な心」「しなやかな心」「へこたれない心」を高めていく。

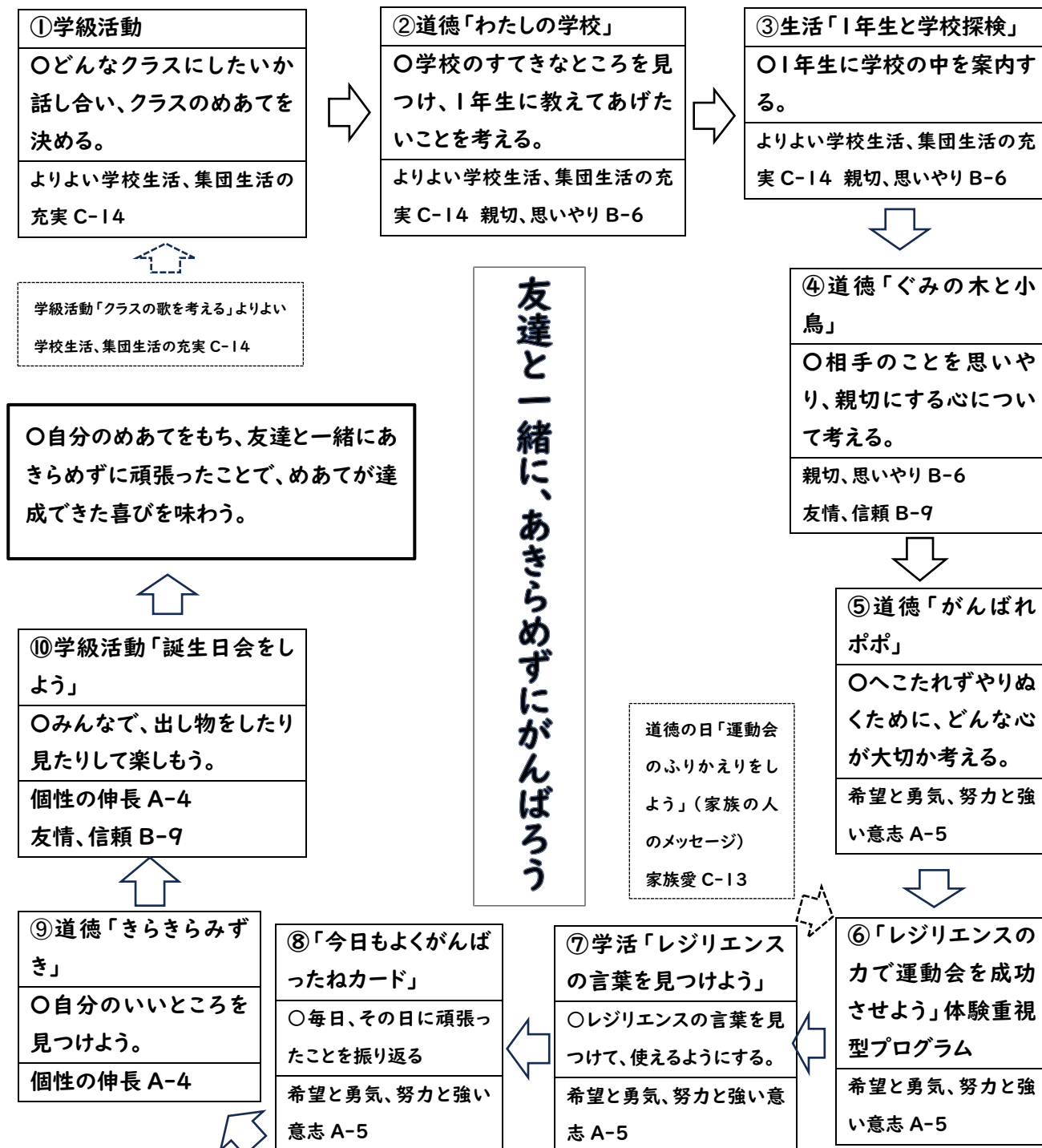


3 研究の実際（２年生の取り組み）

（１）児童の実態より

本学級（２年赤組）の児童は、明るく素直な児童が多く、与えられた課題にもまじめに取り組んでいる。けれども、課題を難しく感じたり多く感じたりした時や苦しい状況に直面した時には、「難しそう。」や「できない。」等、マイナス発言をしてしまう児童やみんなの頑張る気持ちを盛り下げる発言をしてしまう児童が数名いる。１年生の学習に比べて、２年生の学習は、学習する内容も多く、難しくなっているので、児童の学習意欲が下がってきてしまっていると感じることもある。そこで、レジリエンスが大切になってくる。課題が難しくなってもあきらめずに頑張り、いろいろな面で力を付けてほしいと願っている。

（２）単元構想図



(3) 単元で実践したこと

①学活「どんなクラスにしたいか話し合い、クラスのめあてを決める」 よりよい学校生活、集団生活の充実 C-14

2年赤組の学級目標をみんなで話し合っ決めて。児童は、自分たちがなりたい姿をたくさん考えられていた。この目標を担当がまとめ、教室の前面に掲示している。みんなで考えためあてをみんなで守ろうという気持ちが高まっていた。

クラスの目標を決めた時に、児童が考えたなりたい自分たちの姿を紙に書いておき、それをもとにクラスの歌を決めた。曲は「ドレミの歌」に決まり、その曲に合わせて歌詞を当てはめて、自分たちで歌を作った。自分たちで考えた歌なので、親しみをもち、気に入っているようだった。クラスの歌を作ったことで、クラスのみんなで頑張ろうという気持ちが高まってきたように感じた。

みんなえがお
みんななかよし
あかるく たのしい2年赤
あったかことば いっぱい
たすけあおう さそいあおう
てきぱきこうどう

二年赤組のうた

①二年赤組 あかるく元気
みんななかよし けんかをしない
だれもあそぶ やさしくちょうだい
みんなをようばう てきぱきしよう

②二年赤組 みんなえがお
あったかことば みんなで言おう
さそいあおう たすけあおう
みんな大さき 友だちいっぱい

③二年赤組 話を聞くと
しぜいに正しく まわりをよく見
あいさつしよう 時間をまもろう
ろうかをあそぼう みんなでまもろう

②道徳「私の学校」よりよい学校生活、集団生活の充実 C-14 親切、思いやり B-6

学校で自分たちにかかわってくれている人は、たくさんいることを確認した。学校で仕事をしている先生たちの願いを考えた後、学校の好きなところを書いた。その後、入学してきた1年生にどんなことを教えてあげたいか考えた。1年生にしてあげたいことを考えることで、相手意識をもち、1年生の役に立ちたいと思っていた。

1年生に教えてあげたいことや一緒にしたいこと

- ・白山小学校のみんなは、優しいよ。
- ・学校は、楽しいところだよ。
- ・体育は、おもしろいよ。
- ・小学校は、広いよ。
- ・1年生が困っていたら、助けてあげたい。
- ・1年生にいろいろな場所を教えてあげたい。
- ・廊下を走っていたら、優しく注意したい。
- ・図書室には、本がいっぱいあるよ。
- ・けがをしたら、手当てしてくれるよ。
- ・先生たちは優しいよ。
- ・みんなで助け合って生活しているよ。
- ・漢字とか計算を習うよ。
- ・2階の景色はいいよ
- ・遊具で一緒に遊びたい。

③生活「1年生と学校探検」よりよい学校生活、集団生活の充実 C-14 親切、思いやり B-6

1年生と2年生のペアを決めて、1年生に学校の中を案内した。2年生なりに1年生を気遣ってゆっくりと歩いたり、詳しい説明をしたりしていた。また、お兄さんお姉さんとして、1年生にいい手本を示そうとしていた。道徳「私の学校」で書いていたように、「1年生にいろいろな場所を教えてあげたい。」や「図書室には本がいっぱいあるよ。」など、道徳で学習したことを生かし、1年生のことを考えて、行動できていた。



④道徳「ぐみの木と小鳥」親切、思いやり B-6 友情、信頼 B-9

(1) 小鳥が嵐の中、リスのところに行くかどうか考える場面について



小鳥が嵐の中でぐみの実を届けに行くかどうか迷った気持ちを赤と青のハートの中に書いた。嵐で羽が痛い、けがをするかもしれないという気持ちも書いていたけれど、りすさんのために行きあげたいという気持ちを多くの児童が書いていた。自分だったら行けるかと問うと、難しいかもしれないと言っていた児童が多かった。でも、「小鳥にとってりすさんは、大切な友達だから。」「嵐や寒さのせいでもっとりすさんの病気が悪くなるかもしれないと思ったから。」「このグミのみを食べると治るかもしれないから絶対に届けてあげたいと思ったのだろう。」などと考えていた。児童は、体調を崩している友達のことを考える小鳥になりきって気持ちを考えられていた。

(2) 役割表現について

小鳥がぐみの実を届けに行った場面の役割表現をした。小鳥とぐみの二人組になってしてみた。小鳥役はりすを心配して、りす役は嵐の中、ぐみの実を届けてもらった感謝の気持ちを表現し、役割表現を通して、友達のよさを感じていた。



(3) 気持ちを表現するハートカードについて

小鳥が嵐の中でぐみの実を届けに行くかどうか迷った小鳥の気持ちとりすに「ありがとう。」と言われた小鳥の気持ちを赤と青のハートの色で表現した。文章で詳しく書けない児童もハートの色を塗り、ハートカードの色を見せることで、自分の思いを表現しやすそうだったと思った。



(4) 学習して考えたこと

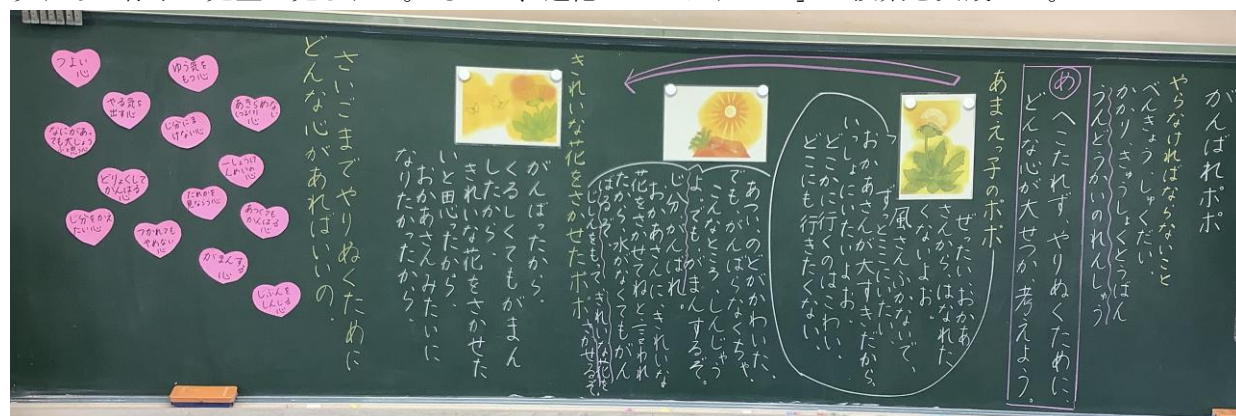
- ・友達が困った時に声をかけたい。
- ・友達に優しく注意したい。
- ・わたしは、親切にできる時もあるけど、友達を少し見捨ててしまうこともあるので、直したい。友達に優しくする心をもっともちたい。
- ・わたしも小鳥さんみたいに家族や友達が困っていたら親切にしたい。小鳥さんはすごく優しいんだと感心した。
- ・友達を大切にしたい。友達を傷つけない。



この学習をして、友達に親切にすると、自分も友達もぼかぼかの気持ちになるんだと実感していた。そして、「友達と一緒に仲良く遊び、みんながよい気持ちになるように行動したい。」や、「自分を信じて、友達のために頑張りたい。」と考え、レジリエンスも高まってきた。

⑤道徳「がんばれポポ」希望と勇気、努力と強い意志 A-5

運動会の練習を運動場に出てするようになった時に、気温が上昇し、暑さとまぶしさで、頑張り切れない様子の児童が見られた。そこで、道徳「がんばれポポ」の授業を実践した。



(1) 自己評価

自分がへこたれずにやりぬく心がどのくらいあるかがわかるために、学習する前と後に心の自己評価の○の数を塗るようにした。実践する中で2つメリットがあると感じた。1つ目は、丸の数を少しでも上げようと中心価値のことをしっかり考えて自分を高めようとする力を引き出しやすい。2つ目は、この時間はこの心を学習するんだという目標がはっきりすることだ。資料を読んで気持ちを考えるだけの授業ではなくて、学習のめあてがぶれにくくなった。

授業後のへこたれずにやりぬく心の自己評価

授業前の、へこたれずにやりぬく心の自己評価



授業前と授業後の自己評価を比べると、ほとんどの児童が上がっていた。その理由をたずねた。

- ・ポポががんばっていたことをぼくもまねしたい。
- ・ポポががんばったから、ぼくもがんばりたい。
- ・ポポの気持ちをいっぱい考えて、ポポの気持ちが分かったから。
- ・へこたれない心を考えたからがんばろうと思った。あきらめないでいるとできる。
- ・運動会ががんばるぞと思ったから。
- ・この勉強をして、やる気が出た。

自己評価が上がった児童

- ・もともとそこまでへこたれていない。
- ・わたしは、いつもやる気いっぱいだから。

自己評価が変わらない児童

(2) 学習から学んだこと

きょうの学しゅうから、どんなことを考えたか書いてみましょう。
あきらめなく、思いまわす。
一年のお手本になりたいです。
みんなどうかいのダンスで、まろがえ
したいです。

きょうの学しゅうから、どんなことを考えたか書いてみましょう。
かんばつてすいし田んぼい
ほくもつんどういのれんしんをかん
ぱりたいです。

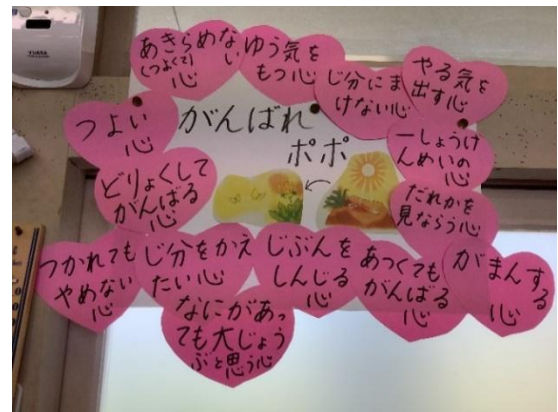
きょうの学しゅうから、どんなことを考えたか書いてみましょう。
へこたれずにゆつと気をもって
やたらとできるあきらめかけても
かんばればでキると思いました。

きょうの学しゅうから、どんなことを考えたか書いてみましょう。
これか、うんどうかいでへこ
たれず、れんしんしゅうをかんば
あきらめなく、いっしょがたいせつだ

きょうの学しゅうから、どんなことを考えたか書いてみましょう。
やりぬくために、かんばつてすいし
うんどうかいで、あきらめなく、いっ
しょがたいせつだ。うんどうかいで、
あきらめなく、いっしょがたいせつだ。

(3) 子どもたちの言動を価値付けるための掲示の工夫

あまえっ子のポポの気持ちと暑さと寒さに耐えたポポの気持ちを考えた後に、へこたれずにやりぬくためにどんな心が大切か考えた。子どもたちは大切な心をたくさん見つけることができた。見つけた心を教室に掲示し、生活の中で生かしていけるようにした。子どもたちが生活の中でへこたれずに頑張ることができた時やそういう前向きな言葉を使った時に、子どもたちが考えた心がキーワードとなり、教師が子どもたちの言動を価値付け、学んだことが実践とつながりやすくなった。



⑥「レジリエンスの力で運動会を成功させよう」体験重視型プログラム 希望と勇気、努力と強い意志 A-5

運動会の練習が始まった頃、「レジリエンスの力で運動会を成功させよう」という体験重視型プログラムの目標カードを学校でそろえて使用した。運動会の練習が始まった時の自分と終わった後の自分を比べて、どのように自分が伸びたのか、どんな頑張りがあったから伸びたのかを振り返るものである。

運動会の当日は、家族の人も見に来てくれていて、はりきって頑張っていた。ダンスは、今までで1番よかった。徒競走は、どの児童もあきらめずに最後まで走った。玉入れは、今まで1度も1位になれなかったが、運動会で初めて1位になった。あきらめずに頑張れば、報われることはあることを学んだ。運動会後にレジリエンスのワークシートを記入した。また、道徳の日の振り返りの絵日記を書いた。絵日記は、家族の人にメッセージを書いてもらい、子どもたちの頑張りを認めてもらえるようにした。

道徳の日「運動会のふりかえりをしよう」

二年 赤組

手より、はだのしみにしていた人
 どうかいそぎました。
 はじめにタヌキをしました。ダンスで、
 きんきうしていたけど上手におどれました。
 ワザにとまづそうをしました。とわ
 りて、では、いにはなれなかったが、と
 ニカカ三に、あんなにかうれしかったです。
 て、うしろに玉入れをしました。
 玉入れではじめて、ニカ、も玉を入れた
 ました。そのほか、めでかたのか一ぱ
 くうれしかったです。

おもしろいゲームだね。みんなよくがんばったね。おめでとう。

おもしろいゲームだね。みんなよくがんばったね。おめでとう。

レジリエンスのこぼれ

わが家になくとも思われる
すくなくとも思われる
いかにがんばろうね
おれんじしよう
き、とできる
これくらいへい気さ
むりだ、と思わなくて
かんば、たらでまふお
いかにがんばってまよう
あきらめのなきがはろう
こころをいかにくつで、
かくいふふたふたよ
じ分をしんじよう
どきまどきなぞ、
かんば、てね、
みんなでマフカしよう

きょうも、よくがんばったね!

2年(子)組

6/12 しゅくだいばかりでわすれた
いようしました。いつもありがたう。

6/14 きつしよとうはばの^{いいも}
ふきを^{お337}かりん^{てい}いでいます。^ま

6/14 ちがうのうたで大きい声でうた
えました。本ほんでも、かみばさみでね。

6/15 書いて、きれいに字を書
きよかったです。でいいに書いてすごいです。

6/16 休んでる^とどろはおどけてつか
たです。水もこぼれずにおよげています。

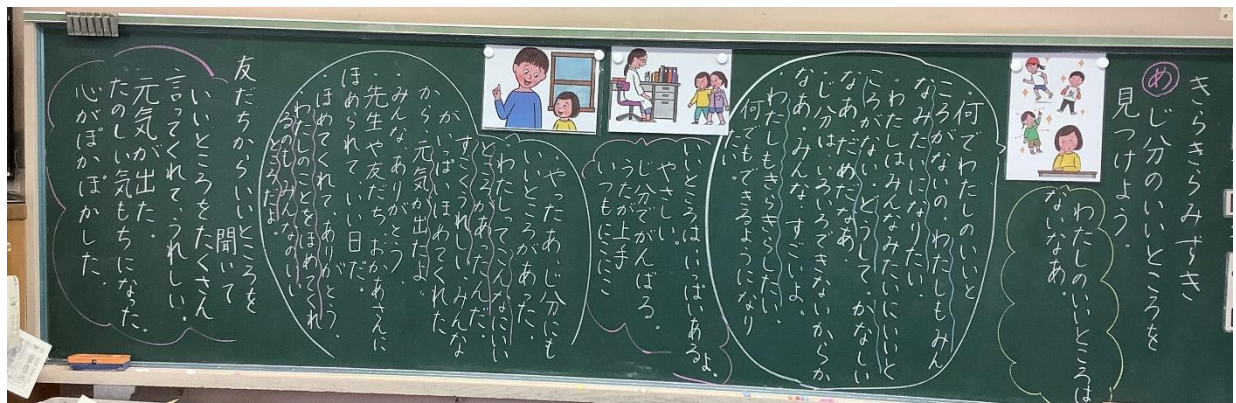
6/17 音かくてテストをかんは、や
りました。しゅう中してとりぬて、すごい
おもえて上手にできました。

6/20 でいいにうえていて、すごいです。

6/21 休んで大プールでもうくのびたい
やさいはいひろえました。

すごいわ、いっぱいひろえたね。

⑨道徳「きらきらみずき」個性の伸長 A-4

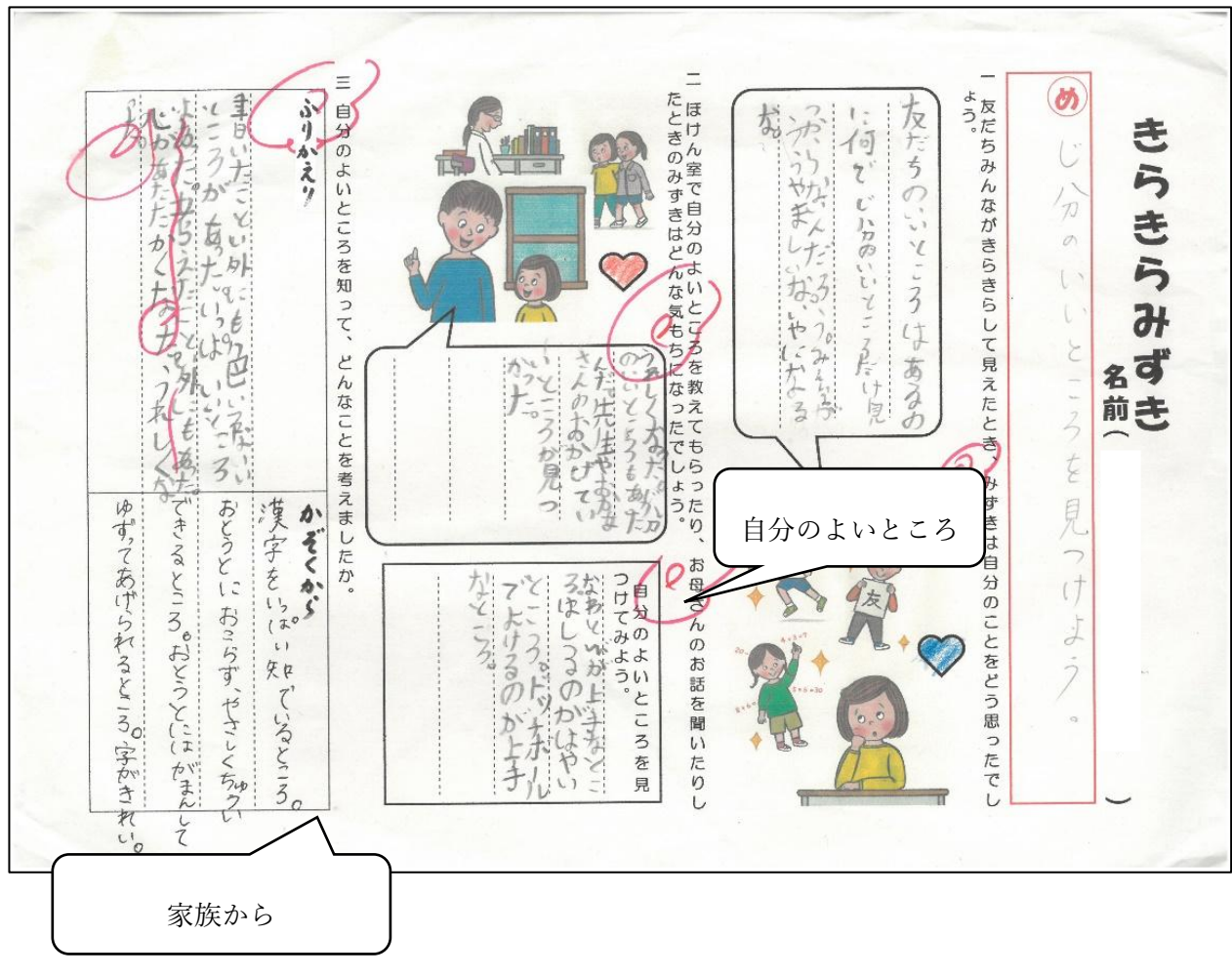


(1) 自分のよいところを書く

自分のよいところを自分で考える時間をとった。例として、教師も自分が思うよいところを伝えた。思ったより、自分のよいところに気付いていた。友達や先生や母親からよいところを聞くまでは自分にはよいところがないと思っていたみずきと違って、自分にはよいところがあると思えていたので、安心した。

(2) グループでよいところの交流

5人グループになり、友達のよいところを付箋に書いて、お互いに紹介し合った。友達から自分では気付いていなかったよいところを伝えてもらい、温かい気持ちになっていた。家族の人にも、児童のよいところを書いてもらった。



はやくしゃん
いであそびでいいね。いろんなことあそ
びでいいね。
くし田より

さんへ
友だちにや
さしくていい
ね。
より

・たれにでもやさしく
 できるところをすすめて
 す。グループかつどうでは、
 リーダーになって、みんなを
 まもっていますね。
 ・べんきょう中には先生や
 友だちの話をよく聞けて
 いるんだよ。

字がキレイで
いいですね。

- ・いいことをたくさん言ってくれて元気が出た。
- ・うれしくて、心がぽかぽかした。
- ・すごくいい気持ちになった。
- ・みんなのいいところも知ることができてよかった。
- ・みんな、友達のいいところが言えていて、すごいと思った。

粘り強く頑張ることや文章を書くのが苦手で、道徳の時間には適当に考えたことを書いていた児童が、「きらきらみずき」の学習で友達にいいところを伝えてもらった後、思ったことをたくさん書いていた。いいところを伝え合うことは、レジリエンスを高めるのに効果的だったと思った。

がんばれ 水水

[illegible]

物々

やるゝかぞる
えをがきへにい
おにーをむたい

はにんたてす白糸の
たふれにみちみち

元カレにうす
ていいね。

いつもみんなに
をわらわせている

はしるのが
はやいね。だからお
にこ、こいつよいね。

あはれのこと
かしこにのん
でいいね。
より

か
あ
い
へ
に
も
い
い
こ
う

[illegible]

⑩学級活動「誕生日会をしよう」個性の伸長 A-4 友情、信頼 B-9

誕生日会を年に3回している。1年生の時から遊びと出し物を交代でしている。話し合いは、司会グループを決め、輪番制でしている。今回は出し物をして、自分がみんなに披露したいことを発表するのが楽しそうだった。友達の出し物を見るのも楽しく、楽しい時間になった。自分が披露したいことを友達に発表する充実感や満足感はレジリエンスを高めるのに有効だと感じた。



(4) レジリエンスを育むための学校の取り組み

① コグトレ・オンライン

「元気な心」を支える感情の1つである自己効力感を高めるため、1人1台のタブレットを活用し、週に1度朝の活動の時間を「レジリタイム」とし、認知機能強化プログラム「コグトレオンライン」を行っている。「コグトレオンライン」は、認知機能に着目した包括的支援プログラムで、定期的に行うことで認知機能が強化されそれに付随して、学力の向上、生活全般の資質向上、自己効力感の向上などの効果が期待されている。朝の活動以外の時間にも隙間時間や雨の日の休み時間等自由に取



り組めるようにすることで、児童への効果を期待している。

② 体験重視型プログラム

体験型重視型プログラムは、実際にチャレンジしたり物事をやりとげたりすることでレジリエンスを高める長期的な効果を期待した方法である。今年度は、運動会と水泳を学校全体でそろえて取り組むこととし、学年団であと2つ選んで実践するようにした。

例 目指せ金メダル（全校生で目標に向けてチャレンジする活動）、ふれあい班活動、運動会、朝チャレ（体感トレーニング）など

③ スキル重視型プログラム

多様な考え方やソーシャルスキルを学んでレジリエンスを高める方法である。見方や考え方を養うプログラム

年間2回、スキル重視型プログラムを学年で2つずつ実践している。発達段階に合わせてレジリエンスが高まるようにプログラムを考えた。

例 レジリエンス教材

4 研究の成果と課題

- 教科、道徳、特別活動、学校行事などを組み込んで単元構成を考えて取り組んだので、道徳で学んだ価値がレジリエンスとつながり、児童のレジリエンスが高まり、くじけず、頑張ろうとする児童の様子が見られるようになった。身に付いた力を生活の中でさらに生かせるようにしたい。
- 友達とのかかわりも大切にして実践してきた。一人で頑張るだけではなく、友達と一緒に励まし合いながら頑張る学級の支持的風土ができつつある。
- 道徳の教科としての教材研究が十分にできていないので、資料を読み込んで、何を大切に指導するのかをしっかりとおさえて、授業をしていきたい。
- レジリエンスが高まったかどうかの評価は道徳やレジリエンスプログラムのワークシートで見取ったが、担任の児童の様子の見取りが大きく、難しいと感じた。評価も考えていきたい。